

田ノピーフェス

田ノ口小学校PTA主催「田ノピーフェス」が3月11日(土)、田ノ口小学校で開催されました。同イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で触れ合う機会が少なくなっていた地域の皆さんと、イベントをきっかけに繋がりを直そうという思いで開催されました。

イベントでは、同校児童によるフランクフルトやうどん、カレーの販売のほか、一般の出店も行われました。

同校PTAの森佑也(ゆうや)会長は、「想像の倍以上の方が来場してくれて驚いた。フェスは初めてのことで大変だったが、子どもたちにとっても親にとっても良い体験になる1日だった」と話しました。



フランクフルトを作る児童

「思っていたよりお客さんが来てくれて、話もできて、地域の方と繋がれたと思っちゃった。楽しかった」と話しました。

林間学校で植樹体験

2月17日(金)、幡東森林組合・幡多林業事務所による「第34回林間学校」が入野松原で開催され、南郷小学校6年生8名と上川口小学校3・4年生11名、関係者ら約80人が参加しました。

同取組は、子どもたちに林業に興味を持ち、関わってもらうために行われており、新型コロナウイルス感染症の影響のため3年振りに実施されました。

今回植樹したのは約40cmのクロマツの苗木で、計500本。児童らは、スコップで穴を掘った場所に苗木を植え、土をかぶせる作業を行いました。

南郷小学校6年生の岩田阿己(あき)さんは、「1本ずつ植えるのは大変だった。今後大きくなって、人のためになるよう活躍して欲しい」と話し、また、上川口小学校4年生の鈴木麗(れい)さんは、「楽しかった。穴を掘るのが大変だった。大きく成長してほしい」と話しました。



植樹の様子

「楽しかった。穴を掘るのが大変だった。大きく成長してほしい」と話しました。

まほろば くるしお

Vol. 22

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



幡東森林組合 代表理事組合長 堀 孝(たかし)さん

町面積約18,000haの内、約15,000haは森林だという黒潮町。堀さんは、町内の私有林の80%を管理する森林組合の代表理事組合長を務めています。父が持っていた山を相続し、自身も山の管理を行っており、町内で建設会社の代表取締役を務めながら、幡東森林組合で代表理事組合長として活動する堀さんに話を聞きました。

幡東森林組合の活動について教えてください

森林組合は、山を整備し、経営をお手伝いすることを目的として設立された組織で、現在は約900人の組合員が所属しています。元は大方と佐賀それぞれに森林組合がありましたが、町が合併する2年ほど前に両組合が合併し、「幡東森林組合」となりました。組合は主に、山林経営のお手伝い、環境保全のための新植・伐採、作業道の開設、山林部



地籍調査の様子

「良い山になった」など、喜びの声を聞くと嬉しく思います。あとは、山で作業する作業員からは、「大きい木を倒した時、思っていた通りの場所に倒れた時は嬉しい」という話も聞きました。安全第一に事故なく、職員と組合員とで頑張っていきたいです。

活動を通じて感じる嬉しさや楽しさは?

山の所有者さんから「良い山になった」など、喜びの声を聞くと嬉しく思います。あとは、山で作業する作業員からは、「大きい木を倒した時、思っていた通りの場所に倒れた時は嬉しい」という話も聞きました。安全第一に事故なく、職員と組合員とで

現在の課題や今後の目標は?

課題はやはり、人材の確保ですね。山の仕事はキツイという印象があるかもしれませんが、現在は機械化も進み、仕事もしやすくなっています。今後も林業の良いところをアピールして、人材確保できるように頑張っていきたいと思っています。

また、人が少ないと放置される山が多くなり、山の手入れをしなくなると、地盤が緩くなり自然災害の危険性が高まってきます。間伐など、手入れをすることで草木が育ち、地盤が固くなり、自然災害の防止につながります。

山の所有者さんには、自分の財産に少しでも興味関心を持ってもらいたいと思っています。そして、その興味関心が子どもたちにも波及していくと嬉しく思います。



作業の様子